

## クイック・スタート・ガイド

この資料は、DataPower Gateway 仮想エディションを初めて使用するときに役立ちます。

### 製品の概要

DataPower® Gateway 仮想エディションを Citrix XenServer にデプロイするイメージには、アプライアンスをデプロイしてゲストを作成するためのインストール・スクリプトが含まれています。非実動エディションは、テストおよび開発専用です。

### 1 ステップ 1: ソフトウェアへのアクセス



IBM® は、エディションごとに 1 つの仮想ハード・ディスク (VHD) イメージ・ファイルを提供しています。ファイルは、テープ・アーカイブ形式になっています。

- 実動エディション: xxx.xen.vhd.tar
- 非実動エディション: xxx.xen\_nonpd.vhd.tar

パッケージを IBM パスポート・アドバンテージからダウンロードします。以下のコンポーネントが含まれています。

- インストール・スクリプトと一緒にパッケージされた圧縮済みの仮想ハード・ディスク・イメージ・ファイル。
- リソース・キット。
- この PDF 文書。

### 2 ステップ 2: ハードウェアおよびシステム構成の評価



仮想アプライアンスは、スタンドアロンの IBM SoftLayer を実行しているか、このサーバーで管理される Citrix XenServer でサポートされます。仮想アプライアンスのリソースを変更する方法は、デプロイメント後に XenCenter GUI および CLI で使用可能です。

ハイパーバイザーに仮想アプライアンスをホストするには、構成済みの DataPower サービスに十分なリソースをプロビジョンする必要があります。各 仮想アプライアンスの最小のリソース割り振りは以下のとおりです。GiB はギガバイトの基数 2 の定義を表していることに注意してください。

- 4 つの仮想プロセッサ (vCPU)
- 4 GiB の RAM
- 32 GB のディスク・スペース

### 3 ステップ 3: DataPower 仮想アプライアンスをデプロイするための準備



DataPower VHD イメージ・ファイル・パッケージは .tar アーカイブです。イメージ・ファイル・パッケージ内では、圧縮済みの DataPower アプライアンス・イメージには .vhd.gz ファイル拡張子が付いています。xe コマンドを使用してアプライアンスをデプロイするには、付属の dpxenmgmt.sh スクリプトが必要です。

xe CLI を使用して Citrix XenServer ハイパーバイザーへのデプロイメントを準備するには、次のようにします。

1. .tar イメージ・ファイルをダウンロードして解凍します。
2. XenCenter コンソールを開くか、SSH を使用して、XenServer コントロール・ドメイン (Dom0) に root ユーザーとしてログインします。
3. xxx.vhd.gz ファイルを、XenServer root ユーザーに表示されるネットワーク共有に転送します。
4. dpxenmgmt.sh スクリプトを root ユーザーのホーム・ディレクトリーに転送します。
5. xe コマンドの **xe network-list** を入力して、XenServer リソースのネットワーク・ブリッジ名を決定します。

### 4 ステップ 4: DataPower 仮想アプライアンスのデプロイ



XenCenter GUI は、アプライアンスのインポートとデプロイに使用できます。xxx.vhd.gz イメージ・ファイルは 16 GB の圧縮解除された形式でインポートする必要があるため、この方式には数時間かかります。

xe CLI を使用して Citrix XenServer ハイパーバイザーをデプロイするには、次のようにします。

1. スクリプト・コマンドの例を入力します。GiB はギガバイトの基数 2 の定義を表していることに注意してください。
  - 以下の例は、デフォルトの 8 つの vCPU と 8 GiB の RAM をデプロイし、デフォルトのサイズである 1 GiB の RAID ディスクを作成し、アプライアンスを始動します。

```
dpxenmgmt.sh import-appliance --vm-name-label 'vm_name'--input-file 'path/image.vhd[.gz]'  
--network-bridge 'network_bridge_name' --create-raid-disk --start-vm
```

## 5 ステップ 5: 始めに



仮想アプライアンスをデプロイして電源をオンにした後で、CLI から初期化する必要があります。アプライアンスを初期化した後で、Web 管理サービスを構成して DataPower WebGUI にアクセスし、ご使用条件に同意する必要があります。

仮想アプライアンスを初期化するには、以下の手順を実行します。

- XenCenter GUI 内の **xe** CLI から
  1. 「リソース」ペインから「仮想アプライアンス」を選択します。
  2. 「コンソール」タブを選択します。CLI はデプロイメントの進行を表示し、アプライアンスにログインするためのプロンプトを出して終了します。
  3. ユーザー名とパスワードの両方に **admin** を入力して DataPower アプライアンスにログインします。
  4. これで、仮想アプライアンスを管理できるようになり、Web 管理サービスが初期化されます。
- SSH セッション内の **xe** CLI から
  1. **import-appliance** スクリプト・コマンドに含まれている **--start-vm** オプションは、デプロイメントの完了後にアプライアンスを始動します。
  2. CLI はデプロイメントの進行を表示し、アプライアンスにログインするためのプロンプトを出して終了します。
  3. ユーザー名とパスワードの両方に **admin** を入力して DataPower アプライアンスにログインします。
  4. これで、仮想アプライアンスを管理できるようになり、Web 管理サービスが初期化されます。

## 6 ステップ 6: モジュールの管理



実動エディションの場合は、IBM Passport Advantage®でモジュールを購入します。モジュールを購入すると、アクティベーション・ツールとインストール手順を含むパッケージを受け取ります。

非実動エディションと開発者エディションの場合は、無効化ツールを使用して、不要なモジュールを無効にします。このツールは、IBM Fix Central から無償で入手することができます。

## 詳細情報



詳しくは、IBM Knowledge Center (<http://ibm.com/support/knowledgecenter/SS9H2Y>) の IBM DataPower Gateways 資料を参照してください。